

カキ「秋王」の着果率が向上する環状はく皮

果樹部

1 背景、目的

本県で育成したカキ新品種「秋王」は大果・高糖度で食味が優れており、産地への導入が進んでいます。しかし、生理落果が多く、着果が不安定であることが課題となっています。そこで、着果率向上のため、環状はく皮処理の効果について明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 満開 20 日後に主幹部や主枝基部へ 3mm 幅の環状はく皮処理を行うと、ジベレリン処理や無処理の場合よりも着果率は高くなります（図 1、図 2）。
- 2) 環状はく皮処理によって、果実品質や日持ち性に影響はみられません。（表 1、一部データ略）。
- 3) 健全樹では環状はく皮処理による樹勢の低下はみられません。処理翌年の雌花の着生数に影響はなく、雄花の着生にも影響はみられません（表 1）。

3 主要なデータ・画像など



図1 主幹部への環状はく皮処理

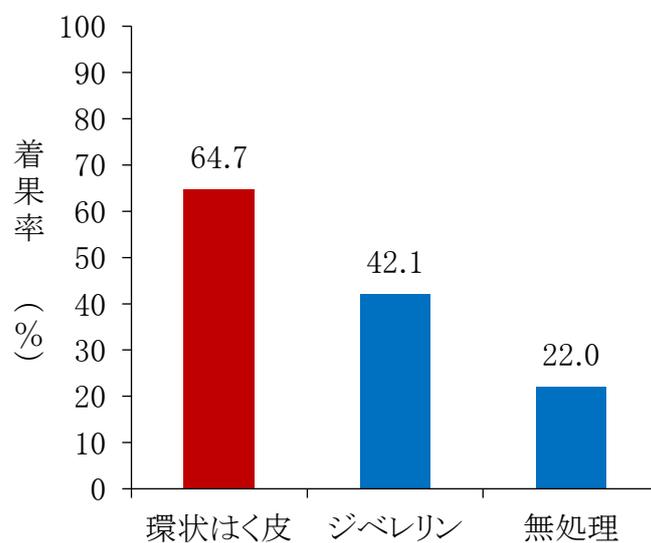


図2 環状はく皮処理による「秋王」の着果率（平成26～28年平均）

注）平成26年時点で樹齢5年生

表1 環状はく皮処理による果実品質と処理翌年の生育

処理方法	果実重 (g)	果皮色 (赤道部)	糖度 (Brix)	母枝当たり着蕾数		頂芽新梢長 (cm)
				雌花	雄花	
環状はく皮	393	5.8	16.8	11.8	0.0	28.4
ジベレリン	361	5.2	15.8	8.5	0.0	31.6
無処理	338	5.3	16.3	9.2	0.0	30.0

注) 果実重、果皮色、糖度は平成26～28年の平均。母枝当たり着蕾数および頂芽新梢長は平成27年～28年の平均。

